

2021年3月期 第3四半期決算説明資料

第97期：第3四半期累計期間
(2020年4月1日～2020年12月31日)

2021年2月3日



太平洋工業株式会社

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 第3Q 連結業績

改善努力および販売回復により、3Q会計期間の業績は過去最高

(百万円、%)

	前第3四半期		当第3四半期		前年同期比			
	3Q実績	累計実績	3Q実績	累計実績	3Q実績		累計実績	
					増減	増減率	増減	増減率
売上高	40,310	過去最高 123,075	過去最高 43,210	過去最高 108,038	2,900	+7.2	△15,037	△12.2
営業利益	2,115 5.2%	過去最高 6,798 5.5%	過去最高 4,101 9.5%	過去最高 4,963 4.6%	1,985	+93.9	△1,835	△27.0
経常利益	2,855 7.1%	過去最高 7,791 6.3%	過去最高 4,559 10.6%	過去最高 5,873 5.4%	1,704	+59.7	△1,917	△24.6
四半期純利益	2,095 5.2%	過去最高 5,568 4.5%	過去最高 3,324 7.7%	過去最高 4,267 3.9%	1,229	+58.7	△1,301	△23.4

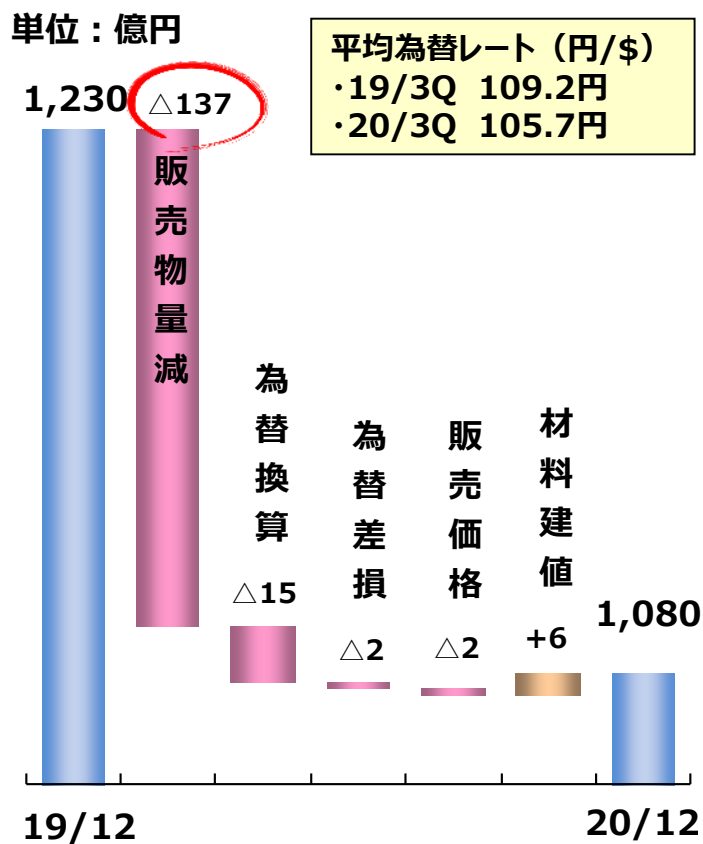
✓売上高 2Qの販売回復が3Qも継続。3Qとしては過去最高。

✓営業利益 改善努力と販売回復により、3Qとしては過去最高。

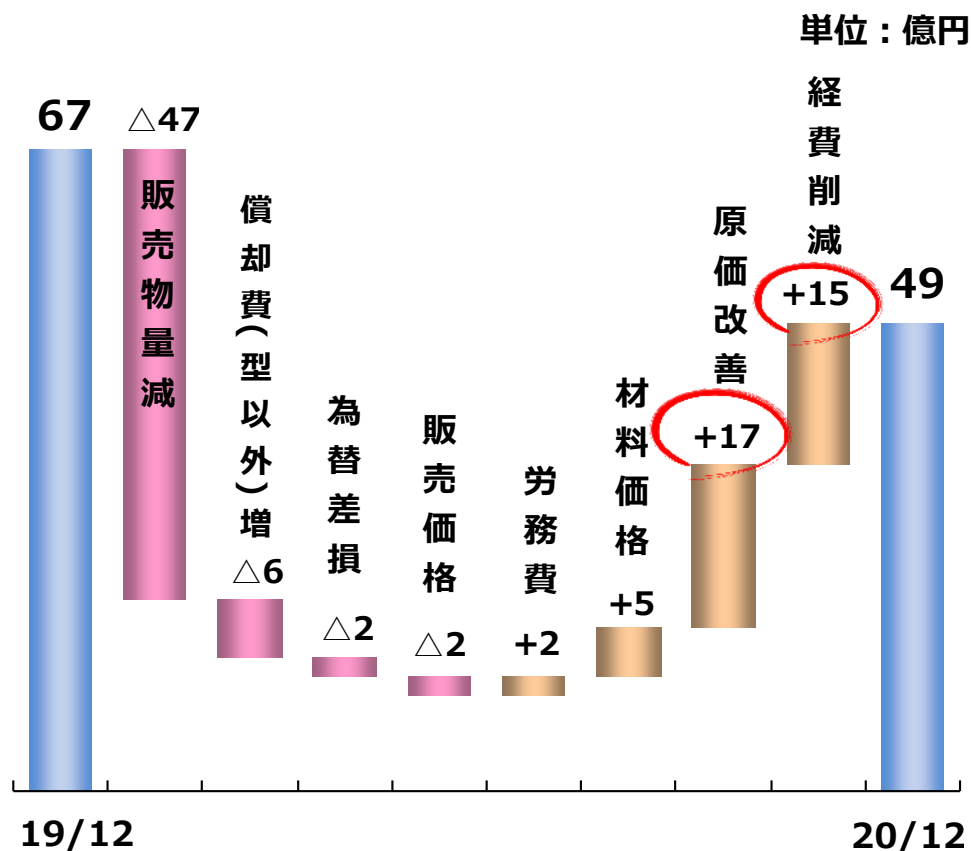
1-2 第3Q 連結 売上高・営業利益増減要因

コロナ影響により大幅減収なるも、改善・経費削減で減益幅を縮小

《20年度3Q 対 19年度3Q》
売上高△150億円

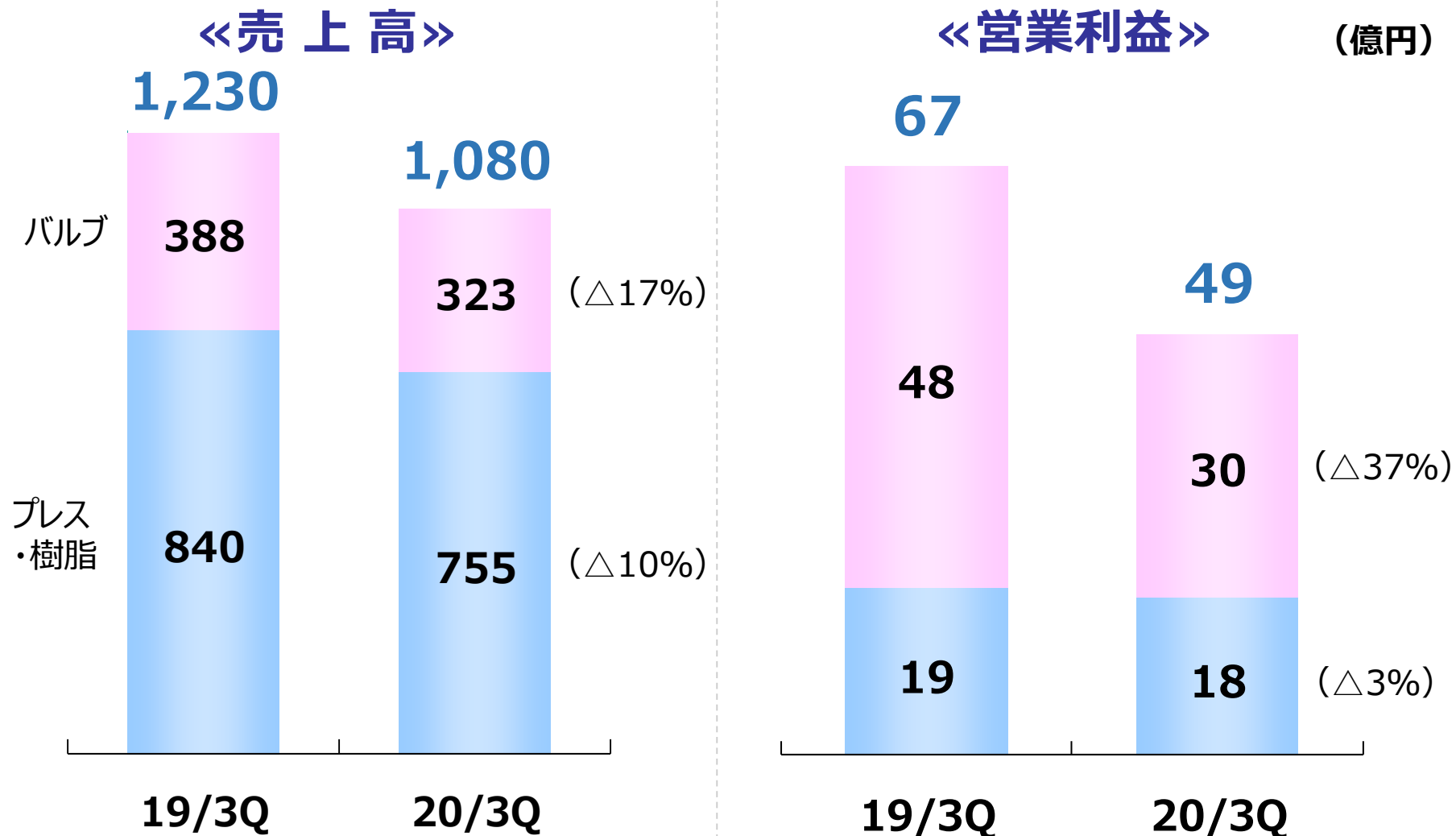


《20年度3Q 対 19年度3Q》
営業利益△18億円



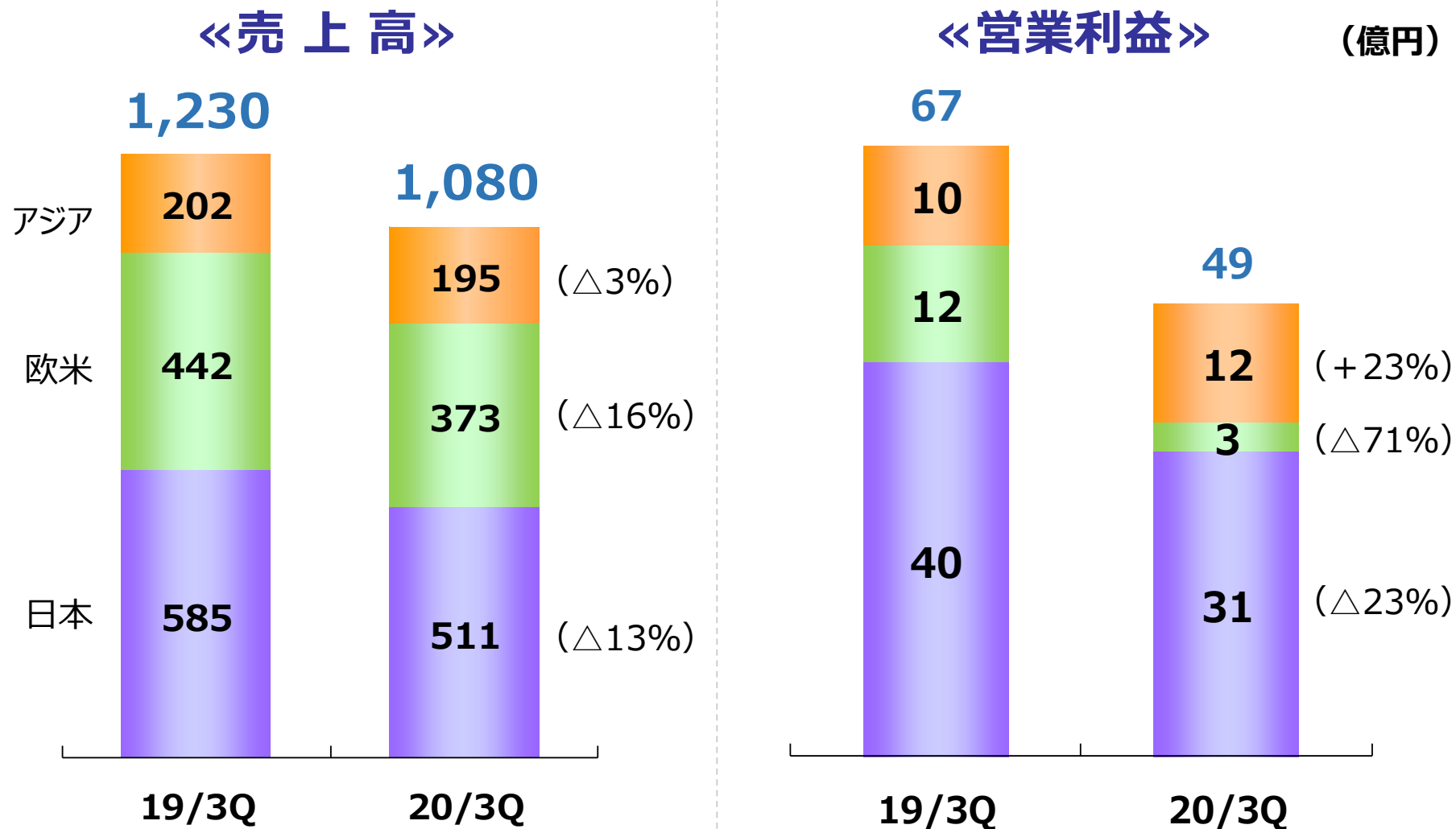
1-3 第3Q 連結事業別セグメント

プレス・樹脂事業は黒字化、バルブ事業は減益幅縮小



1-4 第3Q 連結地域別セグメント

アジアは増益、欧米は黒字化、日本は減益幅縮小



2-1 通期 連結 業績予想

通期予想を上方修正。前期比では2割減益まで回復

(百万円、%)

	'19実績	'20 前回予想	2020年度			前回予想比		前期比	
			3Q累計 実績	4Q予想	通期予想	増減	増減率	増減	増減率
売上高	過去最高 165,969	145,000	108,038	39,962	148,000	3,000	2.1%	△17,969	△10.8%
営業利益	過去最高 10,511	6,000	4,963	2,537	7,500	1,500	25.0%	△3,011	△28.6%
経常利益	11,130	6,500	5,873	2,627	8,500	2,000	30.8%	△2,630	△23.6%
(四半期)当期純利益	7,256	4,500	4,267	1,733	6,000	1,500	33.3%	△1,256	△17.3%
売上高営業利益率	6.3%	4.1%	4.6%	6.3%	5.1%	1.0%		△1.2%	
ROE	7.5%	4.5%	—	—	6.0%	1.5%		△1.5%	
ROA (営業利益 \div 売上)	5.2%	2.9%	—	—	3.6%	0.7%		△1.6%	
一株当たり純資産	(円) 1,614	1,661	1,686	1,714	1,714	53	3.2%	100	6.2%

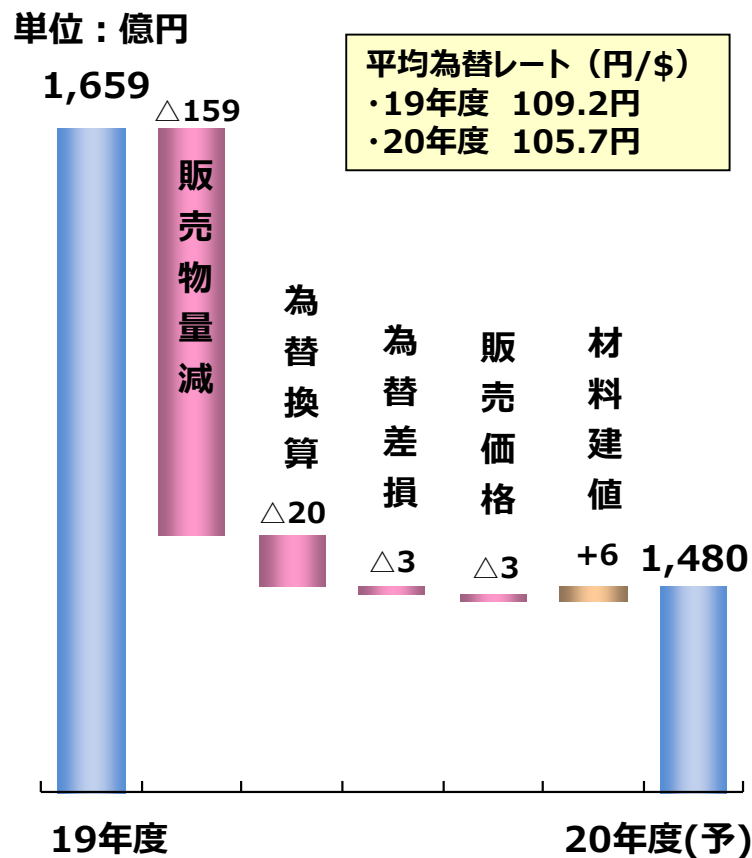
✓売上高 4Qも引き続き回復傾向にあると想定

✓営業利益 改善の継続と販売回復により、通期で前回予想比1.5億円増

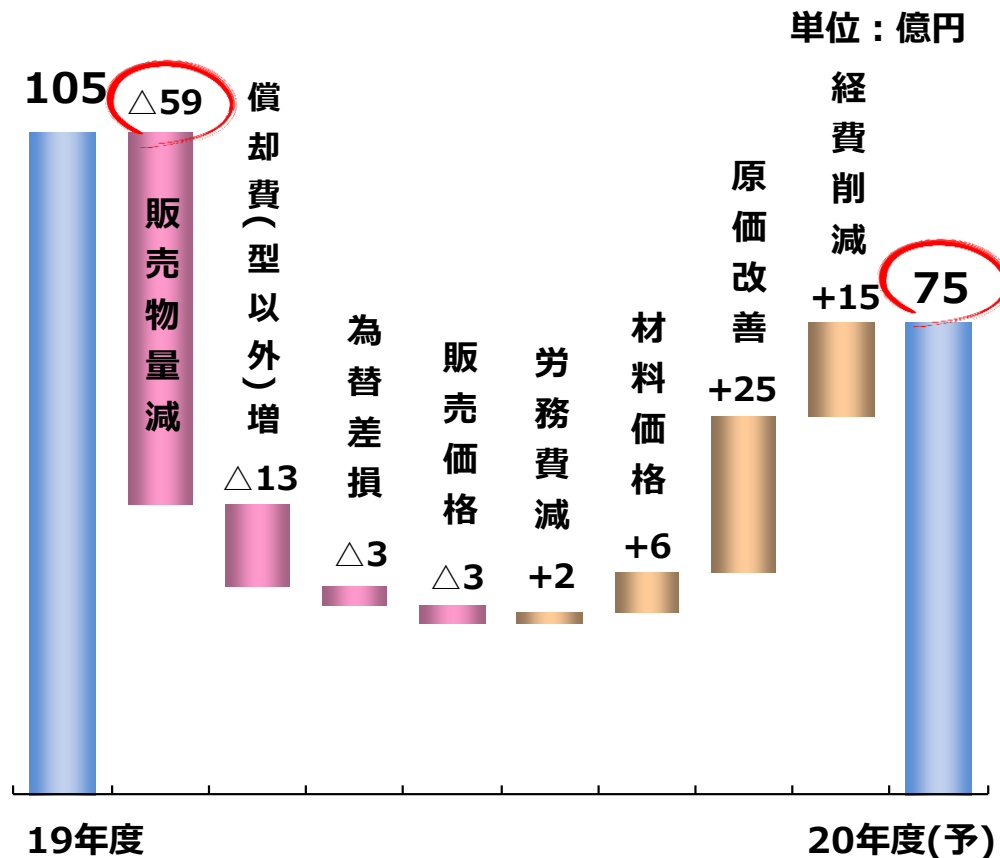
2-2 通期 連結売上高・営業利益 増減要因

改善努力と販売回復で業績は急回復

「20年度予想 対 19年度」
売上高 Δ 179億円



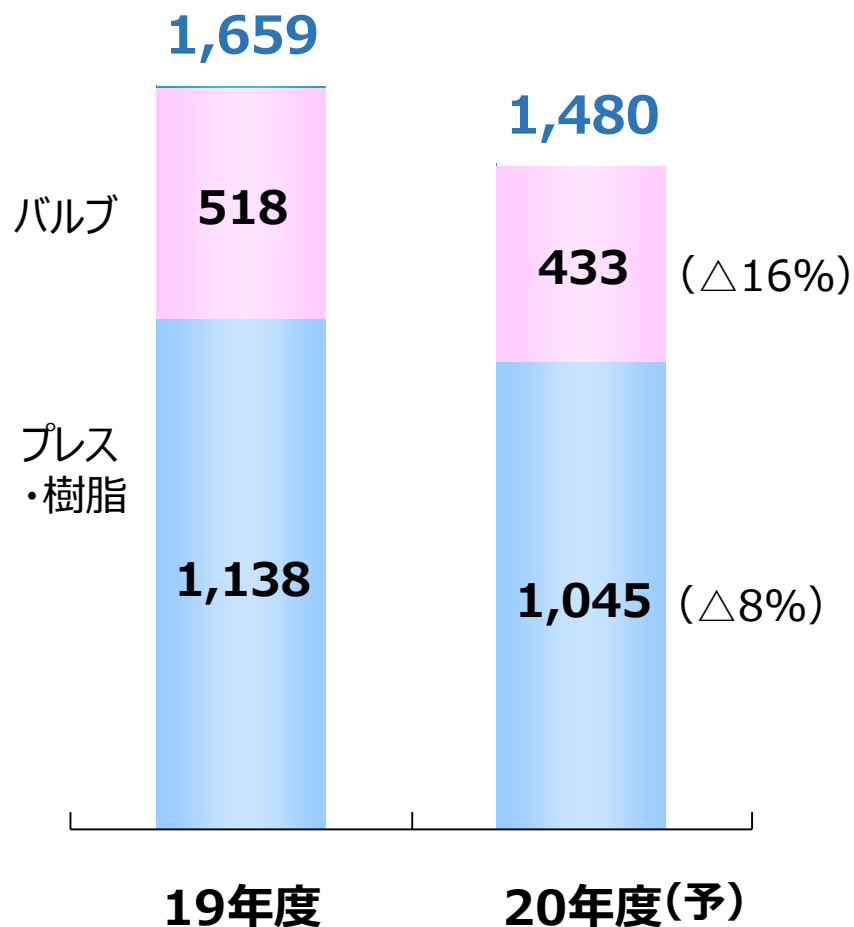
「20年度予想 対 19年度」
営業利益 Δ 30億円



2-3 通期 連結事業別セグメント

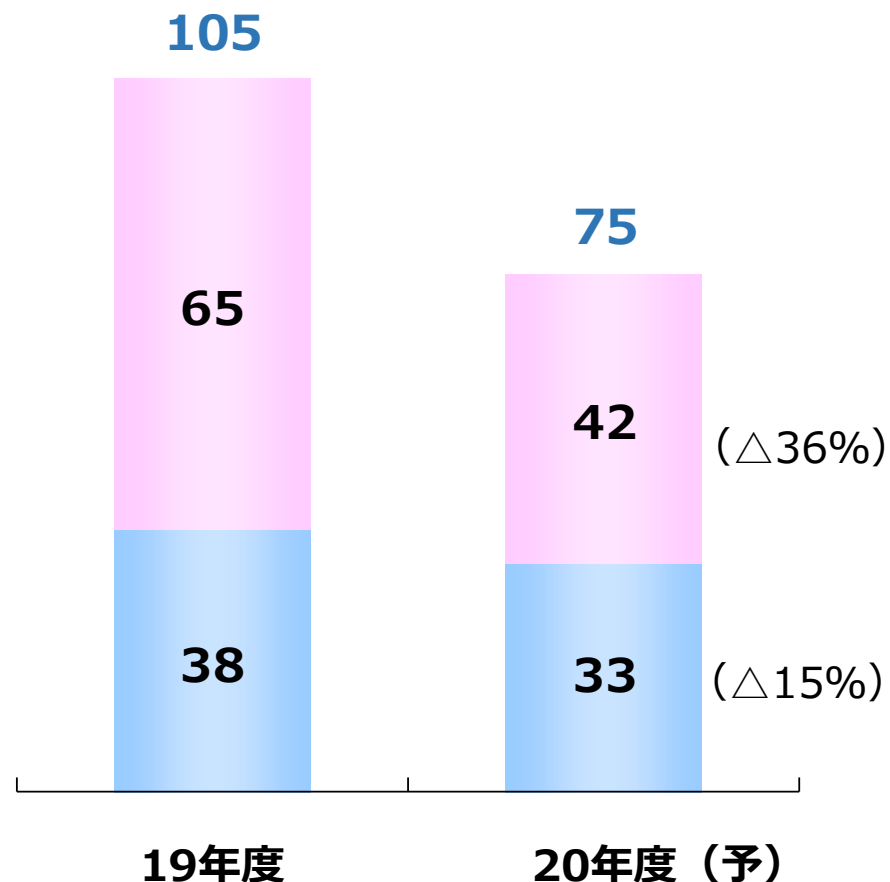
両事業ともに黒字見込み。減収減益幅を縮小

《売上高》



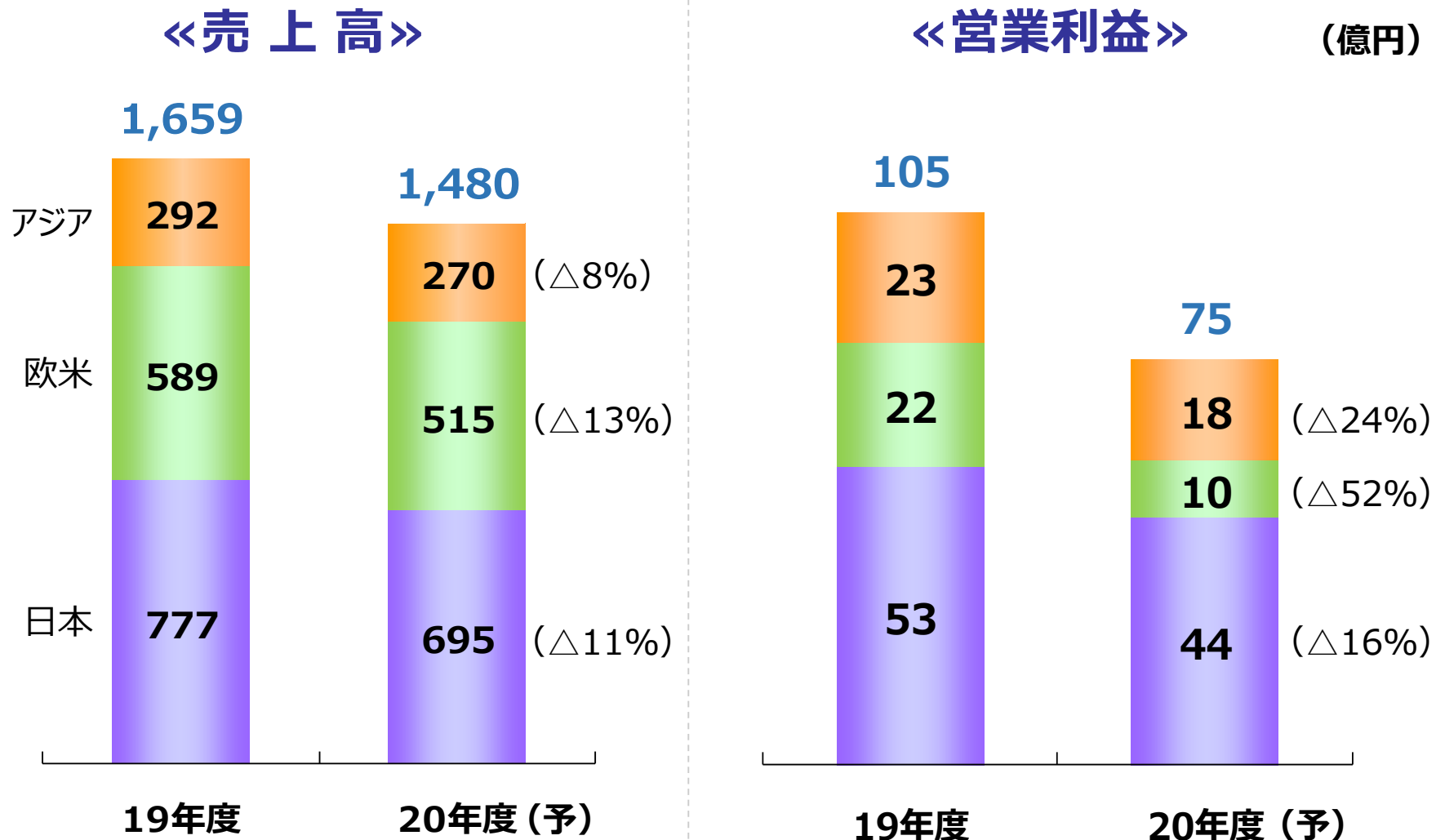
《営業利益》

(億円)



2-4 通期 連結地域別セグメント

日本・欧米・アジアともに減収減益幅を前回予想から縮小

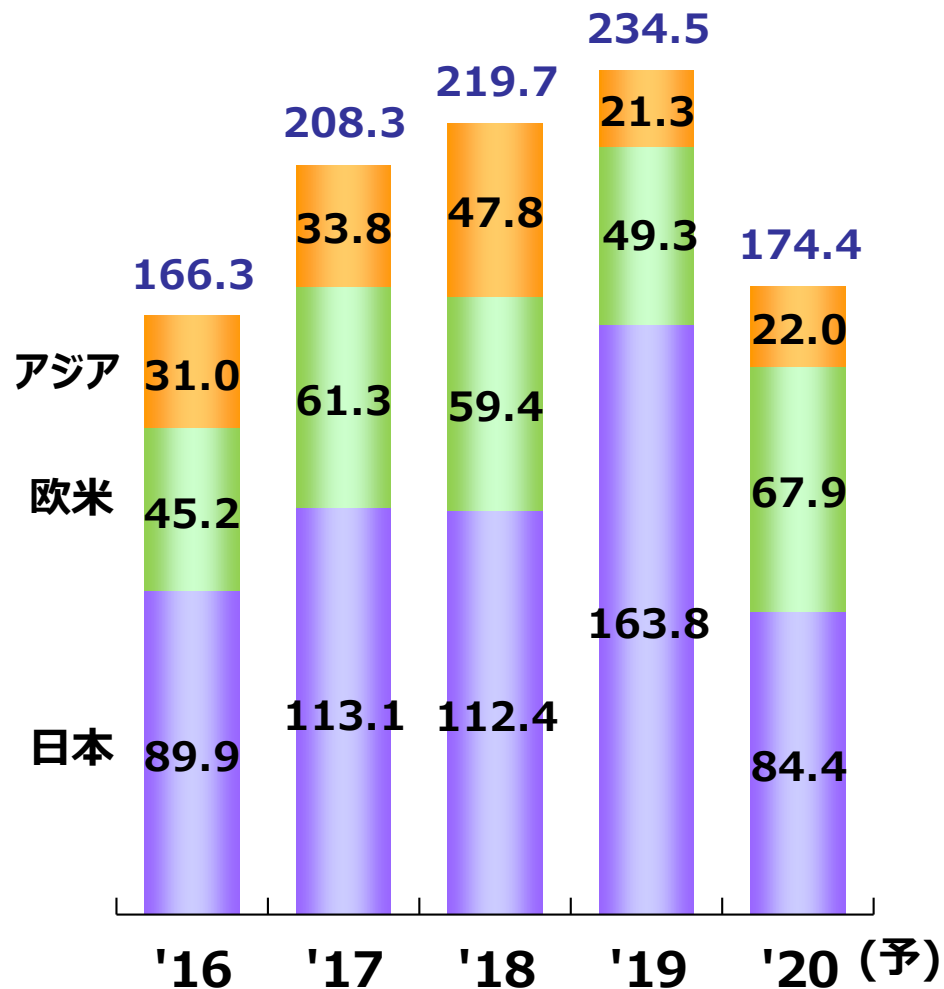


2-5 連結設備投資・減価償却費

設備投資は効果の大きなもの・早く出るものを優先して実施

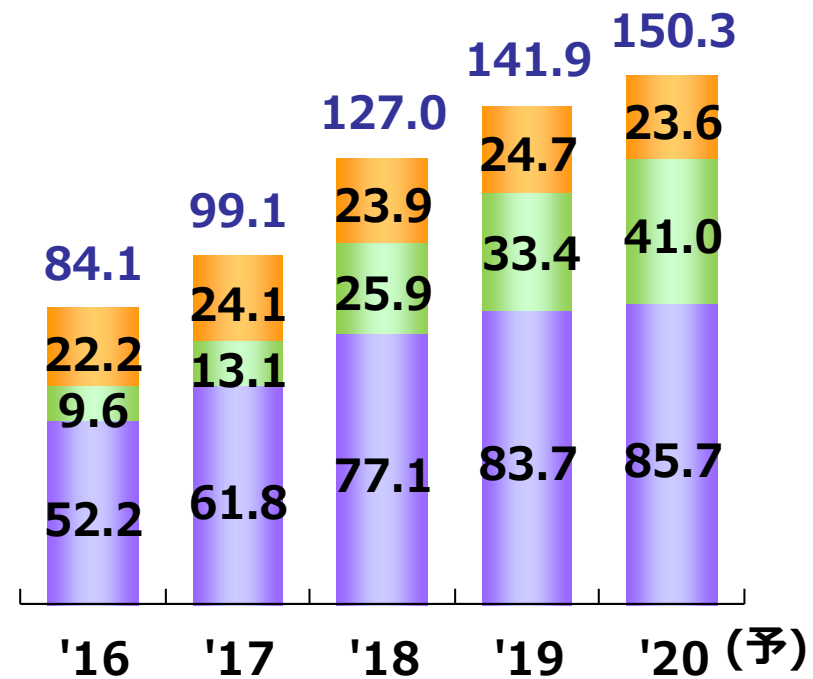
《設備投資》

(億円)



《減価償却費》

(億円)



3-1 足元固めによる成果

地道な取り組みを継続し、持続的成長を続ける企業へ

■ 原価改善・固定費低減による収益力向上

- Web会議活用、仕事のやり方を見直し
- 生産現場でのIoT・AI活用、効率化推進



■ TPMSコア技術を応用した新製品開発

- マルチセンシングロガー …… 輸送時の温度・湿度・位置・加速度等の確認が可能、
薬品・食品の品質管理に寄与
- 電動フォークリフト向けサーモ充電ケーブル



マルチセンシングロガー



サーモ充電ケーブル

3-2 今後の取り組み

地道な取り組みを継続し、持続的成長を続ける企業へ

■ サステナビリティ経営

- ・ 4つの柱と、15のマテリアリティ特定
- ・ 「PACIFIC環境チャレンジ2050」策定
- ・ CDP 気候変動評価：
リーダーシップレベル「A-」獲得
- ・ サステナビリティレポート2020発行
<https://www.pacific-ind.co.jp/csr/report/>

サステナビリティ経営 4つの柱

ステークホルダーとの信頼醸成

製品を通じた社会・顧客課題の解決

環境負荷の極小化

人財の尊重と活躍

15のマテリアリティ

■ 今後も継続する取組み

- ・ グローバルで感染防止の徹底、生産体制維持
- ・ 電動化領域などの新製品開発の加速



思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow